



プレスリリース
報道関係者各位

2017年1月25日
ハンファQセルズジャパン株式会社

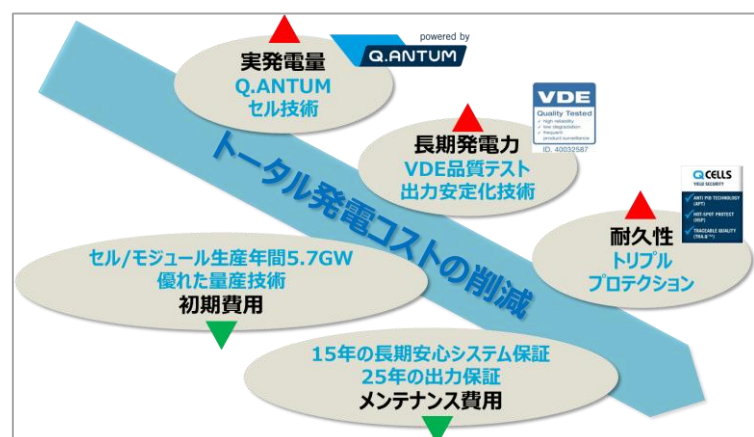
単結晶 Q.ANTUM セル搭載の高性能ラインナップ 高出力のフラッグシップモデルと景観対応のブラックモデル 住宅用太陽電池モジュール 3 機種を発売

*本資料は経済産業記者会、環境省記者クラブ（環境問題研究会）、環境記者会に同時に配信しています

ハンファ Q セルズジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：キム・ジョンソ、以下「Qセルズ」）は、住宅用太陽電池モジュールの主力製品として高効率・高出力の「Q.PEAK-G4.1」と「Q.PEAK S-G4.1」を2月より発売開始します。また景観対応のオールブラック版「Q.PEAK BLK-G4.1」（受注生産）もあわせた3機種を住宅分野の新製品として投入し高性能な製品ラインナップを拡充します。

住宅用の主力製品「Q.PEAK-G4.1 シリーズ」は、Qセルズ独自の単結晶 Q.ANTUM セルを搭載したハイエンド太陽電池モジュールです。60セルの「Q.PEAK-G4.1」は公称最大出力 300W、48セルの「Q.PEAK S-G4.1」は 240W で、当社の従来製品※に比べいずれも出力が向上（109%）しています。
※「Q.PLUS-G4.1 275」（60セル）と「Q.PLUS S-G4.1 220」（48セル）との比較

また Q セルズの開発拠点があるドイツでは、太陽光で発電した電力の買取価格が下がり電気料金より安くなる状況のなか、発電電力の用途が売電から自家消費へシフトしています。そのため、実発電量の高さだけでなく、長期発電力や耐久性、初期費用やメンテナンス費用までを含め、製品価値を高めることで、【**トータル発電コストの削減**】に寄与する製品開発を進めています。




今回「Q.PEAK-G4.1 シリーズ」では、新たに開発した出力安定化技術（Anti-LID）により長期間にわたる安定した出力の提供を可能にしました。




【Q.PEAK-G4.1 シリーズの特徴】


1. 単結晶 Q.ANTUM セルを搭載した高出力モデル
2. Qセルズ独自の品質管理技術トリプルプロテクション（アンチ PID テクノロジー、ホットスポットプロテクト、トレーサビリティ）に加え、初期の出力低下を抑制し長期間高い発電力を維持する「出力安定化技術」を初搭載
3. 日本の住宅に適したブラック基調のデザイン
4. 様々な屋根の大きさや形状に対応できる 2 タイプ（60 セル・48 セル）を用意
5. 景観対応のオールブラックモデル（60 セル・290W）を受注生産により提供

【基本仕様】

仕様項目	Q.PEAK-G4.1	製品画像
公称最大出力[W] (+5/-0W)	300	 (60 セル)
公称開放電圧[V]	39.76	
公称短絡電流[A]	9.77	
公称最大出力動作電圧[V]	32.41	
公称最大出力動作電流[A]	9.26	
モジュール変換効率[%]	18.0	
本体サイズ 横 x 高さ x 奥行[mm]	1,000x1,670x32	
質量[kg]	18.8	

仕様項目	Q.PEAK S-G4.1	製品画像
公称最大出力[W] (+5/-0W)	240	 (48 セル)
公称開放電圧[V]	31.81	
公称短絡電流[A]	9.77	
公称最大出力動作電圧[V]	25.92	
公称最大出力動作電流[A]	9.26	
モジュール変換効率[%]	17.8	
本体サイズ 横 x 高さ x 奥行[mm]	1,000x1,348x32	
質量[kg]	15	



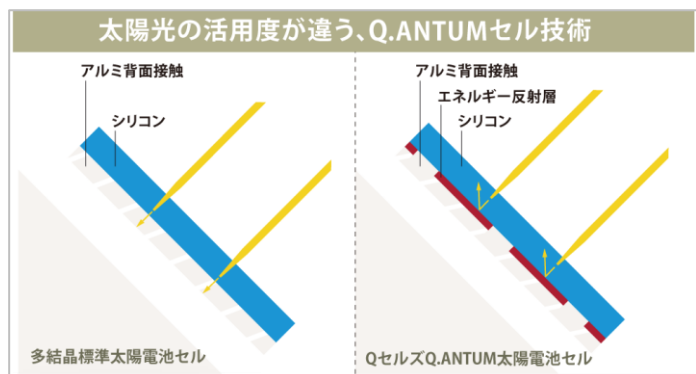
仕様項目	Q.PEAK BLK-G4.1	製品画像
公称最大出力[W] (+5/-0W)	290	 (60セル)
公称開放電圧[V]	39.19	
公称短絡電流[A]	9.63	
公称最大出力動作電圧[V]	31.96	
公称最大出力動作電流[A]	9.07	
モジュール変換効率[%]	17.4	
本体サイズ 横 x 高さ x 奥行[mm]	1,000x1,670x32	
質量[kg]	18.8	

Qセルズは、環境先進国ドイツで培った経験と実績をもとに、永続的にクリーンな電力を提供できる太陽光発電システムの販売・発電事業を日本で展開しています。今後も日本の住宅に適した太陽光発電システムを提供する体制を強化し、日本における再生可能エネルギーの柱である太陽光発電事業の普及と発展に貢献して参ります。

■ Q.ANTUM セル技術

特殊なナノ・コーティングが施されたセルの裏面により、無駄になっていた太陽光のエネルギーを、セル内に閉じ込めることで活用度を高め、より多くの電気を生み出すことに成功。2011年、発電効率 19.5% を達成し、多結晶セルの世界新記録を樹立しています。

また 2015 年には、Q.ANTUM 技術を使った先行機種 Q.PLUS-G4 が「Solar Industry Awards」という世界の太陽光関係者 7 万人が投票して決める賞の「革新的なモジュール製造部門」で優勝しました。

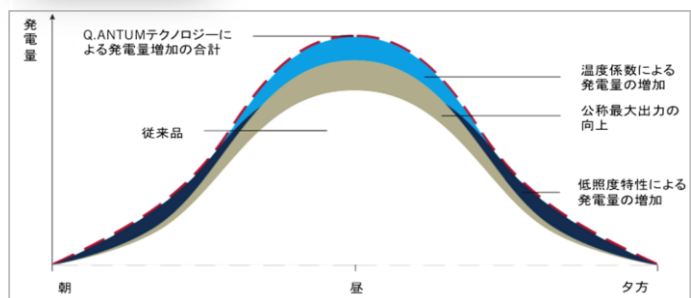


■ 低照度特性

晴天でない曇りの日や朝・夕などを含む、照度が低い環境において、優れた発電力を発揮します。

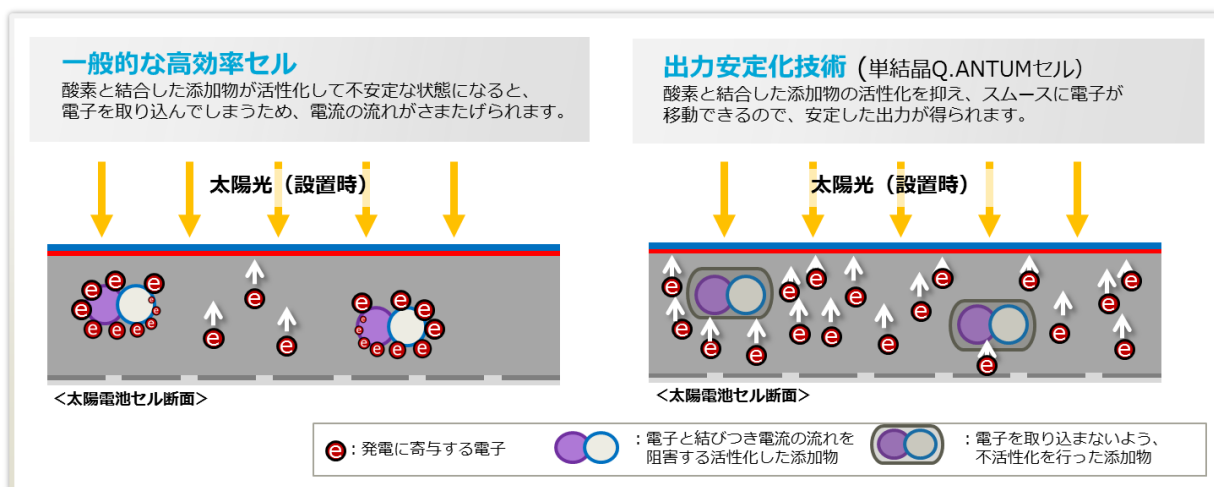
■ 温度特性

昼間や暑い夏の日でも発電量を保ち、一般的な太陽電池モジュールと比べ発電ロスが少なくなっています。



初期の出力低下を抑制する出力安定化技術（Anti-LID）

一般的な高効率セル（PERC 構造）では、初期のセル内部構造の変化によって太陽電池モジュールの出力が低下する現象（LID）がみられ、それを克服する出力安定化技術が大切な役割をはたします。Qセルズでは、高効率のQ.ANTUMセル（裏面パッシベーション構造）量産化に業界でいち早く成功し、そこで培った豊富な経験とノウハウで、初期の出力を安定的に確保する技術を確立しました。それが長期的な発電力の維持にもつながっています。



（参考ホームページ）

- Q.PEAK-G4.1 http://www.q-cells.jp/products/pdt_residential/q_peak_g4-1
- Q.PEAK S-G4.1 http://www.q-cells.jp/products/pdt_residential/q_peak_s_g4-1
- Q.PEAK BLK-G4.1 http://www.q-cells.jp/products/pdt_residential/q_peak_blk_g4-1
- Q.ANTUM テクノロジー http://www.q-cells.jp/products/pdt_quality/q-antum

【ハンファQセルズジャパン株式会社について】

1984年に韓国最大手企業であるハンファグループの日本法人として設立。2014年2月に設立30周年を迎えた。太陽光発電関連事業（太陽光モジュール輸入販売、IPP事業）をはじめ化学品、鉄工、機械・設備、自動車部品、IT関連機器等、多分野にわたる基幹産業のアジア諸国間での輸出入業務と日本市場での販売事業を展開している。2011年より日本の太陽光事業に参入し、2016年12月現在で日本向けの出荷量累計2.7GW、住宅設置数20,000棟を達成した。

URL: <http://www.q-cells.jp/>